

近代日本のステンドグラス

木内真太郎資料を中心に

265



2018年 12月17日(月) -
2019年 2月23日(土)

休館日	日曜・祝日、12月29日(土)～2019年1月5日(土)、1月19日(土)
開館時間	10-17時(入館は16時30分まで)
会場	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館 2階 第4展示室
入館料	一般200円、大学生150円、高校生以下無料
主催	京都工芸繊維大学美術工芸資料館
協力	玲光社木内ステンドグラス
協賛	株式会社ユニオン、東リ株式会社、株式会社竹中工務店、 三協立山株式会社、株式会社安井建築設計事務所

京都工芸繊維大学
美術工芸資料館
MUSEUM AND ARCHIVES

近代日本のステンドグラス

木内真太郎資料を中心に

西洋建築に欠かせない要素の一つにステンドグラスがあります。色ガラスを鉛線でつなぎあわせて図像を描き、これを透過光で眺める——その夢幻的な美しさは極東の島国の人々をも魅了しました。この技法をドイツで学び、日本にもたらしたのは宇野澤辰雄(1867-1911)です。木内真太郎(1880-1968)は、この「日本のステンドグラスの祖」の直弟子として、明治末期以降、数多くのステンドグラスの製作にたずさわり、特に関西には多くの作品を残しました。木内は福島行信邸(1907年)をはじめとして、京都高等工芸学校図案科教授を務めた武田五一(1872-1938)の作品にもたびたび参加しています。武田は自らの作品にステンドグラスを多く用い、建築と工芸を架橋して展開した独自の図案教育においてもこれに取り組みました。木内の協働者となった三崎彌三郎(1886-1962)をはじめ、建築家や図案家として、木内が製作したステンドグラスに関わった卒業生は少なくありません。

日本のステンドグラスの歴史は、アメリカでその技法を学んだ小川三知(1867-1928)については比較的詳しく知られているものの、概説的な記述にとどまっていた。そうしたなか新たな知見をもたらしたのが、木内真太郎の玲光社を引き継ぐ木内英樹氏のもとで大切に保管されてきた資料群です。金田美世氏はこの木内真太郎資料を精査し、宇野澤辰雄の工房やそれを支えた木内の仕事を明らかにしてきました。

今回、金田氏の監修によって、これまでほとんど知られることのなかった木内真太郎資料のエッセンスを紹介します。加えて、武田五一が収集した実物資料や当時の学生作品など、京都工芸繊維大学美術工芸資料館が所蔵する関連資料によってステンドグラスの黎明を支えた図案教育を振り返ります。これらを通じて、近代日本におけるステンドグラスの歩みと達成点を考えてみたいと思います。



木内真太郎 1880-1968

1880年大阪府生まれ。日本生命大阪本社(1902年)などの建築工事に従事したのち、野口孫木の勧めでステンドグラスの道に進み、1907年から宇野澤辰雄のもとでステンドグラス制作を学ぶ。宇野澤の亡き後、1912年に別府七郎と宇野澤組ステンド硝子製作所設立。別府の独立後、1920年に本店を大阪へ移し、のちに玲光社へと改称。以後、大阪を拠点にステンドグラスの製作を続ける。1968年、逝去。技術と工房は3代目・木内英樹氏が引き継ぐ。

◇お問合せ

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

<http://www.museum.kit.ac.jp/>

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

Tel: 075-724-7924

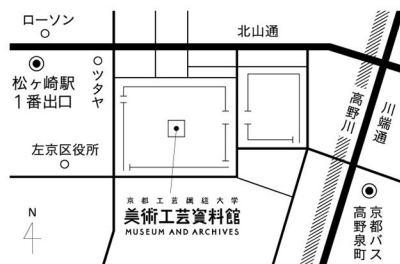
Fax: 075-724-7920

E-mail: shiryokan@jim.kit.ac.jp

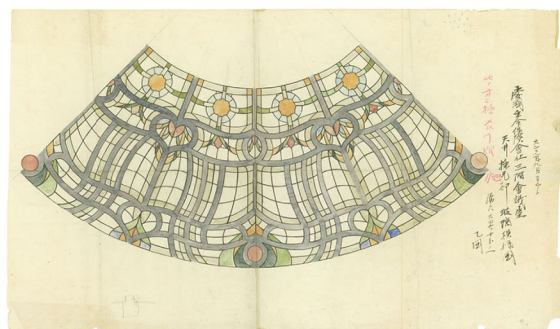
◇アクセス

京都市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」1番出口から徒歩約8分

京都バス「高野泉町」下車、徒歩10分



1



2



3



4



5



1. ジェームス邸(1934年竣工)中二フ ステンドグラス実寸図(裏面) 2. 愛国生命保険会社(1912年竣工)三階会議室天井採光部玻璃模倣図 3・4. 神戸高等工業学校土木科教室(1930年竣工)ステンドグラス実寸図 5. 京都高等工芸学校学生作品 ステンドグラス図案(一原潤次郎・1918年卒業) 6. 夙川カトリック教会(1932年竣工)ステンドグラス実寸図
※すべて玲光社木内ステンドグラス所蔵

6